

## 京都大学病院を受診される患者さんへ

### 改良Dダイマー試薬の評価に関する研究について

体で出血が起こると、傷口を塞いで止血をします。これはフィブリンという物質が固まることで起こります。このフィブリンの塊は、役目を終えると酵素により分解されます。その時にできる物質が、Dダイマーです。Dダイマーは、播種性血管内凝固症候群(DIC)や肺塞栓症など、血栓を起こす病気の診断に用いられます。この検査は、Dダイマーに対するモノクローナル抗体により測定されますが、試薬により感度や特異性が異なります。

そこで今回、京都大学病院では改良Dダイマー試薬を検討し、検査の感度・精度を評価します。検討には、倫理委員会承認日から一年間に検査部にDダイマー検査を依頼された血液の残りを利用します。したがって、新たに採血や治療を行うことはありません。また、血液は改良Dダイマー試薬にて測定前に連結不可能匿名化しますので、結果に対して個人情報に関係することはなく、個人が特定されるような情報を一切公開することはありません。患者さんのプライバシーは十分に尊重されます。ご自身のデータの取り扱いについてお尋ねになりたいことがございましたら、下記までご連絡ください。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(\*)上記につき、当院の医の倫理委員会の承認を受けています。本研究は、株式会社LSIメディエンスとの共同研究であり、研究資金は株式会社LSIメディエンスにより負担されます。性能比較研究中に発生した乖離検体の解析を株式会社LSIメディエンスにて実施する場合があります。この研究結果に対して利益の影響は発生いたしません。

京都大学病院 検査部  
中西加代子  
(電話番号 075-751-3482)